

夏とコロナ

臨床検査科部長
林 達之

冒頭から言い訳めいて申し訳ありませんが、この原稿を書いているのは6月第1週であり、皆様の目に留まる2か月の間に新しい医学的知見が集まり、公的機関から生活行動様式のガイドラインが示された際には、それに従うようお願い申し上げます。



季節とコロナ

新型コロナウイルス(以下「コロナ」と略記)が夏に流行するか否かの問題ですが、新型ゆえに我々人類には数10年にわたるデータの蓄積がなく、正直に言って誰も正解を知りません。

参考までに既に夏を迎えた南半球の国を見てみましょう。ブラジルは3月21日から6月21日までが秋とされ、国土の大半で平均気温が20から24℃です(ブラジル政府観光局ホームページ)。かの国ではこの気温で新型コロナが大流行し、本年6月1日現在の感染者数は49万8440人で世界2位(WHOホームページ)です。東京の7月と8月の平均気温は25・0℃と26・4℃(平年値、気象庁ホームページ)ですから、かの国よりは少し暑いだけです。気温の面だけから言えば、「新型コロナは暑さに弱い、夏には流行らない」わけではないようで、油断大敵です。

エアコンとコロナ

夏と言えばエアコンのシーズンです。

いわゆる「新しい生活様式」における熱中症予防対策として、「エアコンの活用が有効だが、家庭用エアコンは空気を循環させているだけで換気を行っていない。新型コロナ対策として、冷房中でも窓開放によって換気を行う必要がある」と厚生労働省ホームページにあります(5月29日付)。エアコンは単に同じ空気をかき混ぜているだけだったというのは皆様の盲点ではないでしょうか? 「冷房効率が悪い、電気代がかかる」という意見はひとまず置いて、新型コロナ対策には冷房中でも換気が必要だと認識を改めるべきです。

またここにエアコンがらみで怖いデータがあります。米国疾病



対策センター発行の医学雑誌が本年6月に掲載した論文です(中国広州市疾病対策センター、J・Lu報告)。窓のない145平米の広さの同じレストランで食事した3家族(居合わせた時間は53から73分)中、10名が新型コロナに感染した、本来1メートル以内に落下する新型コロナをエアコンの強い気流がより遠くに飛ばしたのが感染原因ではないか、とするものです。夏の夕暮れ、蝉時雨をBGMに御家族や友人との会食を楽しまれる方も多いと思いますが、エアコンの利いた環境下でもいわゆる「3密」を避けることを忘れてはいけません。



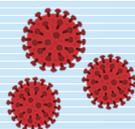
水遊びとコロナ

プールや海水浴はどうでしょうか?

プールの水質基準は大腸菌を標的として塩素消毒を行うもの(厚生労働省、平成19年5月28日通達)で、新型コロナを標的には入れていませんが、一定の効果があると考えます。むしろ新型コロナがプールの水や海水でうつるかどうかが心配するより、陸に上がったからの生活行動様式を心配した方が良さそうです。誰もマスクをしておらず(当たり前)、手指消毒用アルコールが常備されていない環境で、大皿料理を取り分ける、場合によっては割ったスイカを素手でつかんで食べるといった行動は、この夏は慎むべきでしょう。密閉が当たりの更衣室やシャワールームでも、感染防止への配慮が必要です。

子供とコロナ

世界保健機関(WHO)は新型コロナとインフルエンザウイルスとを比較し(本年5月17日付)、インフルエンザでは子供が集団の中でウイルスの伝播の推進役になるが、新型コロナの場合は、子供は大人よりかかりにくい、ただし家族内感染の場合は子供は大人からうつされやすいとしています。働きに出た親御さんが新型コロナをお土産に持ち帰らないよう、しっかり感染予防策を講じたいものです。



皆様におかれましては、今夏は例年以上に健康に留意されてお過ごし下さい。このコラムがその一助となれば幸いです。